

第10号

北見商工会議所青年部広報紙



トライ



北見商工会議所青年部

会長 西村 清一



私たちを取り巻く経済環境は、依然低迷し、行くべき道を模索している状況です。かつてない不況感が蔓延し、悪循環を繰り返す、なかなか暗く長い不況というトンネルから抜け出すことができません。

こんな時代だからこそ青年の知恵と行動力をもって企業、地域の生き残り策を見つけていかなければなりません。

視点を変え、視野を広げ、新しい行動パターンに挑戦することが今必要とされているように思えます。

そのためには、北見の企業家たちが知恵を出し合い行動をもってこの北見を活性化していかなければ、そして青年経済人である私たちが新しい発想で取り組んでいかなければ、街の活性化を計ることやこの不況感、閉塞感を払拭することはできないのではないのでしょうか？

「自分だけよければいい」「自分の企業だけ利益をあげていけばいい」ではなく、自分がこの街にこの北見に何ができるのかを考えていく時期が来ているように思います。その事

が必ずやそれぞれの企業の発展につながるものと確信をしているところでございます。

2年間の任期を頂き、どこまで「おもい」を成就できるかわかりませんが、以下の5項目を基本方針として邁進して参りますので、何とぞご支援ご協力賜ります事を衷心よりお願い申し上げます。

1、ニュービジネスの創造と推進

2、ビジネスネットワークの構築

3、マネージメント力の強化

4、会員拡大の推進

5、情報の発信

2004年
4月

《夢をかたちに
そして現実のものにする為に
行動しよう！》

北見商工会議所青年部事務局

〒090-8710 北見市北3条東1丁目 北見経済センター内 TEL(0157)23-4111・FAX(0157)22-2282
E-mail syokokac@okhotsk.or.jp URL <http://www.kitami-yeg.com>

平成十六年度 役員挨拶

副会長 斉藤 正仁



最近の若者(六十歳以下だそう)は「千代に八千代にさざれ石の巖となりて」という有名な歌の

一説を「岩音鳴りて」と思っているの指摘がありました。こういう勘違いは、そんなに珍しいことではなく、普段の生活の中に隠されているのだと思います。

また、基本は何事につけ大事なものであるので、基本イコール簡単ではありません。

とつびな例ですが、数学の基本的なものに、マイナスにマイナスを掛けるとプラスになることがあります。以前数学者と飲んでいたら時このことを聞いたら、一瞬に答があり、目から鱗が落ちたことがあります。

研修系の委員会として、会員の皆様へ仕事の情報等を発信し、目から鱗がポロポロと落ちてくるような活動ができたらと願っています。

副会長 富樫伊知朗



平成16年度 西村会長のもと副会長に承認いただきました富樫でございます。本年度より2年間宜しくお願いたします。

このお話を聞いた時私で本当にいいのかと自分自身が驚いたと思います。ただ入会動機はそれぞれ違う仲間が組織を作っていくなかで、自分が与

えられた立場で何ができるのかチャレンジすることで成長させて頂き、その中で組織の一員としてメンバーの皆さんに伝えられるものがひとつでもあれば、と思ってお引き受けいたしました。

西村会長の基本方針の中に「おもい」という言葉がありますがこの言葉を大切にそれぞれの委員会と調整をはからせていただきたいと思っております。

さて担当はニュービジネス構想推進特別委員会と非常に面白いネットの委員会ですが、15名のメンバーはすでにかろやかにスタートしております。2年間考えていることをた

たき出せという会長肝いりのため、血液サラサラになる高濃度酸素を持つパイプ役として黒子としても頑張りますので委員会共々お願いいたします。

副会長 中川 勝一



2年間、親睦委員会委員長を務めさせて頂き「大変だったけど楽しい2年間だったなあ。」

などとしみじみ感じていた平成15年の暮れ一本の電話により事態は急変いたしました。

舛川前会長より「副会長を」というお言葉をいただきましたが、正直なところ未熟な自分にはあまにも大役すぎるのではないかとという気持ち先行し、一度お断りを申し上げた記憶があります。しかし、舛川前会長の強い思いと西村会長の明確なビジ

ョンをお聞かせいただき、一緒にやらせていただくとうと決意を新たにいたしました。

経過はともあれ北見YEGが発足し3年半が経過としております。この3年半の中には色々な事がありました。今までは北見YEGとしての組織作りという部分が主体であったように思われます。そしてこれからは「他団体との繋がり」というものが一つのキーワードになるかと考えております。『会員一人一人にとつて有益である事業展開』を今まで以上に模索する2年間でありたい、ひいては会員間の絆を一層深めていきたい、と思うところしきりであります。

大変非力な私ではございますが、2年間どうか宜しくお願い申し上げます。

事務局長 平井 良紀



新年度、事務局長という大役を仰せつかり緊張の毎日が続きます。お話が来たときには私ごとには私ごとですが、結句「はい、わかりました」と返事をしていました。それから幾分時間が経つにつれ責任の重さに気づいたときには遅かったようです。とは申しましてご指名をいただき、メンバーの皆様にご承認賜りましたことに改めて感謝とお礼を申し上げます。

新年度、北見YEGは西村体制のもっと更なる飛躍が求められていた年でもあります。北見YEGに入会して3年目の未熟者な私ですが、西村会長を

しっかり支えることと、長谷川事務局長の助けを借り北見YEGの円滑な運営に努め、担当しております総務・広報・会員拡大委員会の皆様には何かとご苦労をかけることと思いますが、魅力ある楽しい組織づくりに邁進していきたいと思っております。Macを使っている事務局長様ではあります、メンバーの皆様のご理解とご協力を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。

事務局長次長 長谷川嘉男



この度、皆様にご承認を賜り事務局長次長職を仰せつかりました。長谷川嘉男でございます。北見YEG設立以来2期3年半にわたり、総務広報委員会に所属してまいりました。今回は西村会長のもと、どこの委員会に配属されるかと思っておりましたら、委員会配属なしの事務局次長という予想外の役まわりで、自分自身少し戸惑っているというのが本音であります。

今年度、北見YEGは大きく姿を変え、委員会の名称目的変更、4委員会体制など、これまでの組織から一歩踏み込んで、青年部規約にもあります商業の振興発展、青年経済人の研鑽の場として、特色をもった素晴らしい組織にステップアップするのでは、と、私自身大きな期待をしております。各委員会、例会など北見YEG活動がよりスムーズに運営できますよう、私自身微力ではございますが、皆様のご協力を頂きまして、平井事務局長、酒井事務局と力を合わせて邁進してまいりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後に、お世話になりましたが、お話を聞きました。感謝を申し上げます。本年西村丸に對しても変わらぬお力添えを賜りますよう心からお願ひを申し上げます。二年間の御礼とさせていただきます。

顧問 舛川 誠



平成十四年四月 二代会長として重責を担わせて頂いたから早いもので二年が経過し、今無事に西村三代目会長にバトンを渡すことができ、私の気持ちは安堵感と満足感で一杯であります。

そして、爽やかな気持ちで14年度15年度を振り返るのも、私にこの会長職を与えて下さりご指導頂いた鈴木顧問、迷った時に示唆を頂いた坂井監事さん、そんな時にも一番身近なところで私を支えてくれた西村、竹内両副会長、松原事務局長、無理難題を聞いてくれた、長南、坂野、中川委員長をはじめとするメンバーの皆さんのお陰とあらためて感謝を申し上げます。

任期中は会長として全国・全道・ブロック等の大大会、会議、研修会等々に積極的に出席させて頂き、思っていた以上に多くの方々とのお会いがあり、貴重な経験も数多くさせて頂きました。

そして何と云っても昨年、皆さんと精一杯の力を振り絞って臨んだ北海道ブロック大会主管の経験は、私にとって一生の財産となり、今更ながら本当によくやっていた、苦労をおかけしたという思いに胸が熱くなります。

打ち上げでの皆さんの表情、あのお酒の味は生涯忘れたい思い出です。また単会内の活動においては、正副委員長を中心に委員会メンバーが知恵や発想を出し合った素晴らしい例の企画、様々な取り組みをして頂き、当初期待を越えた以上の成果を各委員会には上げて頂きました。あまりにも沢山のことが思い出され、書き出すときりがないので遠慮させて頂きませんが、会長としてメンバーの皆さんとこの二年間共に過ごせたことは、二度とない私の人生において、かけがいのないものであると思います。

会長としての役割をどこまで果たせたかは疑問ではありますが、皆さんから頂いたご恩は今後YEGで頂いた役割の中で精一杯お返ししていくことしかないと考えております。

最後になりましたが、お世話になりました。感謝を申し上げます。本年西村丸に對しても変わらぬお力添えを賜りますよう心からお願ひを申し上げます。二年間の御礼とさせていただきます。

平成十六年度委員会抱負

二ユービジネス構想推進特別委員会

委員長 鈴木 達裕



北見YEGが設立されてから3年半が過ぎました。設立当初は、YEGがどのような組織になるのか、

どのような方向に向かうのかは、はっきりと見える状況ではありませんでした。3年半が過ぎた今、西村会長を始めとする北見YEG全委員の意識は「何かをしなくてはならない」「何かを起こしたい」、そんな気持ちになってきているのではないのでしょうか。

そこで当委員会では会長方針に基づき、委員の知恵と力をお借りして、北見YEG委員会が関わる事のできる二ユービジネスを調査・研究し、その結果を基にビジョン・プラン・プログラムを創り上げる事を目的に進めたいと思います。また更に、創り上げたプログラムが会員全員に賛同をいただけるならば、設立準備にも取り組みたいと思います。「二ユービジネス構想推進特別委員会」またの名を「YEGビジネス設立検討委員会」

どのような結論に達するのか、果たして意に合うビジネスを見つげ出すことが出来るのか、否かは、北見YEG全委員の知恵と力にかかっていると云っても過言ではありません。どうか当委員会に、皆様方の忌憚のない意見・情報・遠慮のないご支援・ご協力をいただきますよう、切にお願いを申し上げます。また当委員会から皆様方に、たくさんのご相談を持ちかけさせていただきますので、その際にもご協力いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

マネージメントトレーニング推進委員会

委員長 松井 順仁



この度マネージメントトレーニング推進委員会の委員長をひきうける事になりました。松井です。正直い

ましてこのような大役を引き受けるにあたりとまどいが多々ありましたが、出来る限り会員のお役に立てればとおもっております。まずこの委員会は役割的に研修委員会的な部分がほとんどのようないです。昨年度までは、リーダーシップ論、こだわり論、顧客満足とは？、どちらかというところ、イメージ、新しい発想を作る部分にポイントを当てたものが中心だったような気がします。昨年の全道ブロック大会等会員皆で作りました物も経験させて頂きました。そこで今年度からは、今一度足元を見直す意味で現実的な部分とYEG会員お互いのネットワークを太く確実なパイプが出来るといふ内容で企画して行きたいと思っております。しかし限られた時間の中でどの程度実践、実行できるか解りませんが、今後とも宜しくお願い致します。

コミュニケーション推進委員会
委員長 稲村 秀一
俺が委員長になったからには、誰にも文句は言わせない！
コミュニケーション推進委員会は、まず委員会メンバーが出席しやすいように楽しい委員会活動を目指す、委員会に出たからには自分の意見をぶつけて欲しい、時にはけんかになってもいい、結果としてそれが仲間意識を持つような委員会にし、さらに、本当に知り合っ



たかっと思える、真の仲間づくりを築き上げたい。

そしてその輪を、北見YEGメンバーにひろげ、さらに北見を中心とした周辺地区の他団体へ広げたいと考えている。その為、コミュニケーション例会を開催し、他団体と交流を持つためのなんらかの事業を開催することも考えている。

新入会員紹介

総務・広報・会員拡大委員会

委員 菅原 智淳



この度入会のご承認を頂きました株式会社システムビットの菅原智淳です。

北見市内の会社の情報部門に勤めている時からインターネットサービスプロバイダ「北ねつとクラブ」を運営し、平成12年の6月からは株式会社システムビットの代表取締役に就任し、インターネットサービスプロバイダ事業とパソコンスクール及び情報処理事業を営んでおります。

当社ではデジタルテレビの解消を目指し、全国に先駆けて平成12年4月より無線を使用したインターネット接続サービス(FWA)を提供しており、平成16年3月現在2市6町村でサービスを展開しております。

現在当社は一般第二種電気通信事業者と成っておりますが、一般第二種電気通信事業者ではこれ以上のサービス地域拡大が電気通信事業法上難しいため、第一種電気通信事業の許可申請を行っており、許可が降りると北海道内で9社目と成り、網走管内では初と成ります。

これからも地域のデジタルテレビ解消を目指して北見市を拠点として皆様のお役に立てるサービスを展開して参りますのでよろしくお願ひ申し上げます。



総務・広報・会員拡大委員会
委員 名倉 省吾



皆様はじめまして。この度、新規会員としてご承認をいただきましたナイトラウンジ龍樹、

支配人の名倉省吾です。あらためまして、自己紹介をさせていただきます。昭和38年生まれ、家族は妻龍樹のママと今年6年生と4年生になる男の子2人と、妻の両親の6人家族であります。いわゆるマスオさんであります。出身は静岡県袋井市、12年前に東京より来北いたしました。クラブムサの支配人を経て独立開業、3月10日で9周年を迎えることができました。これもひとえに先輩諸兄の皆様のおかげと感謝いたしております。

趣味、好きなものは、酒と女、これは職業方ラで冗談ですが夏はバイク、冬は子供と共にスノーボードに乗っております。

入会の動機は先輩諸兄のおさそいもあり、自分自身北見という街に何か貢献できることがあるのでは？と考え、この度入会の申請をさせていただきました。迷惑をかけることも多々あると思いますが、これから宜しくお願ひ致します。最後に入会のご承認への感謝とご挨拶とさせていただきます。



例会報告

研修委員会 十二月例会



村からの久保裕史氏(北の起業広場協同組合専務理事)、春日 学氏(北の屋台、えん店主)、阿部 誠氏(造形工房パウハウス代表)4氏を講師にお招きして、YEG創立後初めての泊研修を12月13日(土)に36名という会員の皆様に参加をいただきまして阿寒グラントホテル鶴雅にて行いました。

第1部は大西社長より「鶴雅グループの経営戦略」という題目で貴重な内容の講演をいただきました。

第2部は座談会形式で屋台を再現し、研修委員会伊東君の司会で、屋台村の構想から現在までの道程とその過程でこだわった十勝における地産地消の事例、そして現在の屋台村の状況等をわかりやすく和やかな雰囲気の中でお話いただきました。

2部の講演とハードなスケジュールではありましたが、われわれと同世代のリーダーたちが発想しまとめて上げてきた事例を通じてリーダーシップが何たるかを考える上で貴重なお話を聞けたと思います。

夕方の懇親会では各委員会とも大変熱の入った余興を披露され終始会場は和やかな雰囲気であったという間に時間が流れていきました。

12月例会は北見YEG初めての泊研修ではありましたが、メンバー同士の意思の交流も一層深められ「絆」という意味においても、2003年度を振り返る上においても大変意義深い例会になったような気がします。改めまして商工会議所青年部の良さも再確認できたような気がします。

研修委員会の皆様準備進行と大変ご苦労様でした。

研修委員会副委員長 新井 富治



親睦委員会 一月例会

100年に1度といわれる大雪に見舞われた、1月14日に2004年1月例会を開催いたしました。大雪にもかかわらずご出席いただいたご来賓の皆様やメンバーの方々には心より感謝申し上げます。

親睦委員会の例会としては、いつに無く厳かであり、厳粛に進行しつつさらに交流ができる例会として企画させて頂きました。舛川会長より新年の挨拶を頂きスタートさせて頂きました。ご来賓を代表して永田商工会議所副会長より、「この厳しい経済状況の中であっても、青年部の活動が大切である」とのスピーチを頂きました。

懇親会では次年度役員紹介があり、西村会長予定者より3役の紹介と次年度に向けての意気込みを頂きました。

また、各委員長より2年間を振り返って思い出に残るエピソードを、スライドを見ながら3分間の少ない時間で発表いただき、発表いただきながら苦労語を、ジョークを交えながら語って頂いたのが印象的でした。

昨年開催した全道ブロック大会の報告を鈴木実行委員長より、ご来賓の皆様にお礼と報告をさせて頂きました。こちらにも映像を見ながらだったので、大会を思い出すことができました。

余興の部ではビンゴゲームと風船をターゲットで当てるゲームを一緒にして、皆様に参加してもらいました。坂井監事におかれましては何度となく投げかけていただいたのですが、なぜか当たらず会場を盛り上げていただきました。

最後に全員で記念撮影をして例会を終了することができました。大雪にもかかわらず34名も出席していただき本当にありがとうございます。また、女性会の皆様やホテルのスタッフ皆様には委員会一同お礼申し上げます。

親睦委員会副委員長 近藤 智



研修委員会 二月例会

2年間の研修例会の総まとめとして、YEGメンバーに商品開発にチャレンジしていただきました。

この2年間に登場いただいた講師の皆さんは、例外なく自分のビジネスへの強い「こだわり」と明確な「コンセプト」を持ち、更には新しい手法を躊躇なく取り入れる「決断力」をもたれておりました。そうしたベンチャーマインドをメンバー一人一人に持つてもらおうと実施した2月例会でした。

当日は参加メンバーが5つのグループに別れ、「観光客を北見に泊させるための商品やサービス」をテーマにビジネスプランを作っていました。

一時間という短時間で、完成度の高いプランを作ることは当然できなかったのですが、様々な着眼点や方法論が出され、「アイデアとコンセプトを出し合おう」、「自らをベンチャービジネスマンとして思考しよう」という例会の当初目的は果たすことができました。

発表されたプランについて、それぞれピアソンホテル様、北日本事務機様、三和システム様、北日本事務機様、ワカバ堂様協賛による表彰が行なわれ、ベストプランには舛川会長賞が授与されました。

末尾ながら、表彰賞品の協賛を頂きました各社、そして特別審査員を務めていただいた北見商工会議所前川忠雄次長に心より御礼を申し上げます。

研修委員会委員長 長南 進一



総務委員会 三月例会

平成14・15年度の最後の締めくくりである3月例会は「卒業式と納会」の2部構成にて北見ロイヤルホテルにて開催しました。

今年卒業生は新井君と高橋君の2名で共に北見YEG設立より大変活躍した二人であり記憶に残る卒業式と考えました。委員会では描いた例会イメージは卒業式は緊張感のあるものとし、納会では和やかにそれぞれが2年間を振り返る場となるような企画を考え準備しました。結果としてイメージ通りの最後の例会会として満足のいく内容であったと思います。

委員会としては昨年度3月例会に行なった卒業式での失敗が大変教訓となり、今回は汚名返上とメンバーが一丸となり、多くのアイデアが出され、入念なりハーパーが行い、それぞれが自分の作業をきっちりこなし、自分が自画自賛ではありますが委員会としても納得のできる例会を終える事ができたと思います。

そして、委員として2年間というスパーンで委員会活動を通してできた友情、すばらしい仲間たちに心より感謝を申し上げます。

総務広報委員会委員長 坂野 裕樹

編集後記

二度にわたる歴史的な大雪で、心も体もクタクタになった直後の暖気。幹線道路から一步、中へ入ったとたんだ道路はグチャグチャのデコボコ。会社周りの排雪と、氷割りに、普段甘やかしすぎた中年太りの体がヒューヒューと悲鳴をあげている。

さて、舛川丸が2年間の航海を乗りきり、無事、着岸を果たした。私たち総務広報委員会にとっても、このTRYの発行をもつて、その役割を終えることになる。これまでたくさんの方々のメンバーに取材や、原稿依頼等でお世話になったことを改めて感謝申し上げます。

そして、西村丸の新たな船出である。荒波を乗り越え無事着岸することを願ってペンを置くことにします。

by 小豚のK

